

北秋田市、食育推進へ **児童 13 人、調理に挑戦**



北秋田市の鷹巣小学校 1 年生が 29 日、市保健センターで、ゲームや講話、調理を通じて食の大切さを学んだ。市食育推進計画に基づく「食育ジュニア」事業の一環。

子どもの健康づくりやバランスの良い食習慣、食に感謝する心を育もうと、市内の小学校と義務教育学校の 1 年生を対象に、地域ごとに年 4 回に分けて開催。今年 3 回目だった 29 日は、鷹巣小 1 年生のうち 13 人が参加した。

県食育推進指導員の小塚保子さん(75)が、ジャガイモやダイコン、カボチャなどの花の写真を見せながら「地方や季節で取れる作物に違いがある。畑や野菜に興味を持ってほしい」などと講話。続いて児童が 3 班に分かれ、包丁とピーラーを使って、ハクサイ、ゴボウ、ニンジンなどを切り分けた。おにぎりも握り、豚汁など 4 品を味わった。

このほか、野菜や食に関するクイズやパズル、紙芝居を通じ、児童が楽しみながら食について学んだ。参加した熊谷匠真さん(7)は「小さく切り過ぎちゃったけど、おいしくできた」と話した、(小松田直嗣)

(令和 7 年 7 月 31 日(木)秋田魁新聞より一部抜粋)